

子どもたちの「安全・安心」を守る メールシステムを 運用しています！



緊急一斉メール連絡網を新規導入しました！

平成**25**年**9**月より、区立の小中学校、幼稚園、学童クラブ、保育所の保護者を対象とした、メール連絡網を運用開始しました

- ★ 保護者の方が、任意で登録したアドレスに不審者情報等の緊急連絡や災害時の安否情報などを一斉配信します。
- ★ 詳細は、対象となる保護者に、各施設より文書が配布されています。



学童クラブ児童を対象とした 「ねりまキッズ安心メール」を運用しています！



学童クラブ
これには「の」

平成**22**年**6**月より、区内**97**か所の学童クラブ利用児童の保護者を対象とした、練馬区独自のメールシステムを継続運用しています

- ★ 任意で登録した児童に、ICカードを配布。学童クラブ入退室時に、専用端末にかざすと入退室を知らせるメールが保護者に届きます。
- ★ 学童クラブ利用児童のうち、約**3500**名が利用しています。（在籍児童の約**8**割です）

練馬区では、子どもの生活を守る様々な対策を講じています。メールによる保護者への情報提供は、新しい取り組みですが、**子どもの安全・安心の基本は、地域全体での見守りです！**

どんなに技術が発達しても、**子どもの安全・安心を守るために一番大切なのは、子どもと直接することのできる地域が協力してしっかりと子どもを見守ること、だと考えています！**



常任委員会 文教児童青少年委員会 委員長

特別委員会 総合・災害対策等特別委員会 委員

各種委員会 民生委員推薦会

美術館運営協議会

ご相談は… 関口かずお 事務所

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>



練馬区議会議員 第五十九代議長
関口 かずお

パンダと子育て

上野動物園に二頭のパンダがやってきて、二年半が経った。

当初、パンダの借り受けが決定した時、日中関係は、近年にない緊張状態にあり、賛否両論、むしろ否定的な意見も多かったと記憶している。しかし、パンダが戻ってきてから、上野動物園の入園者数は増加傾向が続き、地元商店街も、パンダにちなむ商品を生産、販売し、パンダ人気を活気につなげる努力をしていると聞く。

ところで、日本でパンダを見ることのできる動物園は三か所ある。そのひとつ、和歌山のアドベンチャーワールドでは、これまで十二頭の赤ちゃんパンダが誕生している。同園では、パンダの飼育

や、繁殖について、ある特別な方針を持っているという。

一般的に、パンダは夏に生まれ、一年半ほどで乳離れし、乳歯が抜けて永久歯に生え変わると、竹を食べられるようになるのだが、同園では、この期間には、母親パンダに新しい子を身ごもらせず、子育てに専念させている。

は、この期間には、母親パンダに新しい子を身ごもらせず、子育てに専念させている。

とすれば、中国の繁殖施設のように、毎年、繁殖期に人工繁殖させ、その後は人工保育する方が、確実に早いのだが、同園では、あえてそうしないという。「子どもパンダが、お母さんを見習えるようにするため」なのだそう。

育てられた期間が長いほど、母親の行動を覚えていていいメス、いいオスになる。わざと一年半、ゆっくり子育てさせるのです。

同園の業務課長の談である。母親パンダも、二年に一度のゆったりした子育てで余裕が生まれ、次の子づくりにも前向きになるという。また、

人工飼育のパンダは、子育ての仕方が分からず、育児放棄をしてしまうことも多いそうだが、今、同園で、初めての子育て中の母親パンダは、十頭の子を産み育てたその母親のように、子どもの扱いがうまく、「子育てするのは当たり前前」だとおもっているようにさえ、感じられるほどののだという。

パンダにも、親のそばにいて身に着けていくことがある。人間も同じだと、おもっている。生まれてから乳離れするまでの、ほんの数年間がいい。ゆったりとわが子に向き合い、子育てに専念できる環境にあれば、親はだんだんと、そして着実に親になり、子どもは、その親の姿を見ながら、育っていく。それが難しい社会になったことが、最近の少子化の進行や、虐待など、子育てに関する問題の深刻化につながっているように、おもっている。

「わが子の肌を離さない子育てができるような施策」を実現すること。パンダに教えられる、今後の私の、大きな政治課題である。